

## 令和3年度第2回愛西市地域福祉計画策定委員会 会議録（概要）

会議名	令和3年度 第2回愛西市地域福祉計画策定委員会
開催日時	令和3年10月29日（金） 午後1時30分から午後3時20分まで
開催場所	愛西市文化会館 3階 第2会議室
出席者	別紙のとおり
欠席者	山本 恭史委員、大鹿 秀夫委員、安井 久委員、原口 浩美委員、 名倉 亨委員
協議事項等	●協議事項 （1）第2期愛西市地域福祉計画素案について （2）今後のスケジュールについて （3）その他
公開/非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
会議資料	・第2期愛西市地域福祉計画（素案） ・【別紙】4 施策の体系（新旧対比表） ・第2期愛西市地域福祉計画策定スケジュール
審議経過	別紙のとおり

愛西市地域福祉計画策定委員

役 職	氏 名	所 属 等	備 考
会 長	原田 健三	愛西市社会福祉協議会 会長	
副 会 長	横井 三千雄	愛西市民生児童委員協議会 会長	
委 員	山本 恭史	愛西市医師会代表	欠席
〃	大鹿 秀夫	愛西市歯科医師会代表	欠席
〃	安井 久	愛西市薬剤師会代表	欠席
〃	原口 浩美	津島保健所健康支援課 課長	欠席
〃	飯田 春夫	愛西市身体障害者協会 会長	
〃	土方 君春	愛西市心身障害児（者）保護者会 会長	
〃	杉方 南衣	愛西市教育委員会 委員	
〃	鷺見 まち子	愛西市障害者施設代表（れいんぼうワークス）	
〃	加藤 輝彦	愛西市老人クラブ連合会 会長	
〃	大原 好夫	愛西市老人福祉施設代表（愛厚ホーム佐屋苑）	
〃	名倉 亨	愛西市子ども会連絡協議会 会長	欠席
〃	大野 雅美	愛西市家庭相談員代表	
〃	安部 清一	愛西市保育協会 会長	
〃	鷺野 明美	日本福祉大学福祉経営学部 准教授	
〃	加賀 隆	愛西市商工会 副会長	
〃	八木 一	愛西市ボランティア協議会 会長	

事務局

役 職	氏 名
保険福祉部長	小林 徹男
保険福祉部 参事	松本 繁
社会福祉課長	田口 貴敏
社会福祉課 課長補佐	中村 正幸
社会福祉課 主任	大川 雄也

社会福祉協議会 事務局長	小澤 直樹
社会福祉協議会 係長	渡辺 秀和

アシスト株式会社	中平 奈美子
----------	--------

## 会議概要

発言者	内容（概要）
事務局	<p>それでは、定刻になりましたので、ただいまより「愛西市地域福祉計画策定委員会」を開催いたします。</p> <p>欠席者の報告</p> <p>議事録をHPにて公開の旨報告</p> <p>資料確認</p>
委員長	委員長より挨拶
事務局	（１）愛西市地域福祉計画骨子素案に基づきP5 1基本目標1まで内容説明。
委員長	施策やそれぞれの役割等についてご意見をいただきたい。
委員	P47の成果目標について、アンケート結果から現状値があり、目標値は「向上を目指します」となっているが、どういう設定の目標値なのかを教えてください。
事務局	目標値は、数値として具体的に表しにくいことから、5年後の令和8年に再度同じ設問でアンケート調査を行い、その回答の割合が向上することによって、目標値の達成としたいと考えている。よって目標値は、現状値より「向上を目指します」という表現としている。
委員	P48・49の具体的施策について、地域の方の人手の問題や育成の問題が心配である。向上させるとの目標により、無理をさせてしまうのではないかと思う。具体的にどういう考えで進めていくかを教えてください。また、現在の活動を進めていく、広めていくということだが、どれくらい向上すれば達成したことになるのか。
事務局	今後、この計画を作成後、1年毎に計画に対する評価を行っていく。地域福祉計画については、全般的な考え方を示すものであり、中身の数値に関しては、評価委員会の中で検討させていただきたい。
委員	P47の①～③の現状値の数値がでていますが、どういうアンケートの結果であるか。
事務局	昨年度に計画策定にあたり市民と地域の福祉関係団体等の方々に対して実施したアンケートである。P20以降で、アンケート結果を抜粋して掲載している。

委員	このアンケートは、どのくらい的人数で、対象者はだれか。また、P47の成果目標の①の現状値が18.3%と低く、心配になる数値である。
事務局	アンケート調査数は2,000件であり、対象者は16歳以上の市民である。現状値の数値は、事実として受け止めながら、再度のアンケート結果と今回の結果を比較したときに、1%でも向上していれば良いと考えている。それにはP48・49の様々な施策が効果的に機能しないと、増えていかない。一つの施策だけでは、現状値は増えていかないのではと考えている。P50・51の各主体がそれぞれの役割として取り組むことで、5年後のアンケート数値が向上し、基本目標1「身近な地域で支え合うまちづくり」に近づくと考えている。
委員	5年後に再度アンケートを取るとのことだが、確実に結果を見出そうとするならば、同一の方にアンケート調査を実施した方が良い。
事務局	その通りだと思うが、アンケートは無作為抽出であり、無記名であり、どの方がアンケートを書かれたかまではわからない。絶対的なものではないが、統計学上、ある一定以上の母集団に調査をすれば、信頼性の高い調査となるとされている。
委員長	P49施策2の②ストックを活用した集いの場として、商店街の空き店舗等の状況はどうなっておりますか。
委員	小規模事業者は、以前からの後継者問題や今回のコロナを機会に休業・廃業といったところが増えてきている。一方で、コロナにより補助金や給付金をもらう際の手続きのため、商工会の会員数は増えているという現状もある。空き店舗等をどう活用していくかは検討していかなければならない。
委員長	施策3の地域福祉について共に学び、活かす環境づくりについて、①ボランティア活動は核となるものだと思うが、ボランティア活動をする方の育成についてどうか。
委員	ボランティア活動をする方の育成については、課題と認識している。また、ボランティア活動の参加者は、一部の方に偏っている現状がある。お年寄りになると、趣味は一生懸命やるが、社会貢献は当たり前にはなっていないと感じる。
委員長	施策3の③人権学習の実施として、保育園での人権教育の実施状況はどうか。

委員	まず0歳児は、保育士と触れ合うことで人間関係を養っていく。大きくなると、芝居や絵本を通して情緒的な部分を育んでいる。また、子ども同士で喧嘩した時などはお話だけじゃない角度からも保育士が子ども達にアプローチをかけて、育てていくよう進めている。
委員長	学校で人権教育（福祉実践教室）の実施状況はどうか。
事務局	昨年度は、コロナの影響で実施できないことが多かったが、令和元年度までは小中学校18校中15校で開催していた。高校での開催は未実施であり、今後呼びかけていく。
委員長	⑤心のバリアフリーとして、障害児の受け入れについてはどうか。
委員	海部地区で比較すると、愛西市に発達支援センターが今後できるとのことで、進んでいると考えられる。
事務局	P52基本目標2（誰もが活躍できる仕組みづくり）について説明
委員長	誰もが活躍できる仕組みづくりについてご意見があればいただきたい。
委員	ボランティアの育成やボランティア制度の充実を図るという内容があり、ボランティアの力や市民の力が必要とされていると思う。機会があればボランティアをやりたいという結果（P21）が、28.9%となっており、アンケートに回答した1025人中約300人やりたいと考えていることになる。今後どこをターゲットにして周知等していけばいいか把握するために、28.9%の結果の内訳や属性を教えてください。
事務局	28.9%の内訳として、割合が高いのは、職業別でみると学生の方が39.6%、パート・アルバイトの方が39.3%、公務員・団体職員・教員が38.7%となっている。年齢別だと、10代が45.7%、20代が41.9%、50代が37.2%、60代が37.1%という状況になっている。
委員	参加の意思があるのは、若い人や退職を控えた人、退職した人が多いとのことなので、その世代に声掛けをしていくとより参加していただけるのではと思う。
委員	私の団体でも、行事を実施する際、参加してくれるのは、だいたい3割であり、アンケート結果の数値と同等である。ただ、もう少し参加者が増えれば良いと思う。

委員	先日、グランドゴルフに参加したが、皆楽しそうに参加しており、老人たちの居場所づくりになっていると感じた。
委員長	P53施策1の⑤健康づくり活動グループなどとの連携として、子育て支援に向けての相談はどんなことがあるか。
委員	現状として、虐待対応、一般の市民から子育てに関する相談を電話や面接で受けている。家庭の相談に来る人は様々で、各機関に情報提供・情報共有し、連携をとりながら対応をしている。
委員長	民生委員活動として、連携はどうか。
委員	民生委員は、各地区に合計113名いる。町内の最先端の場所である。民生委員は、夜も活動しており、行政では把握していない対象の方の情報をもっている。そういう相談があった際に、包括支援センターの方と連携をとり、情報共有している。相談では、本人の言い分とその家族の方の言い分に差がある時があるので、その部分で対応をしっかりとしないと良い方向にはいかないと思う。
委員	ボランティアの参加意思がある方が、4割5割になるとより良い地域になると思う。
事務局	P53基本目標3（支援を必要としている人とサービスを適切につなぐ仕組みづくり）について説明
委員	重層的支援会議について、本人の同意があった場合に会議にあげることになる。よその人がくるのは嫌と言われ、本人同意がとれないと会議にはあがらない。会議の対象にならない人に対する代替策を仕組みの中で位置付けてもらいたい。 また、高齢者・障害者・子育ての部分でこれだけ関係者が関わるので、勉強会や情報交換会をやっていただいて、部署を超えて情報交換をしていただけると良いと思う。
委員長	総合相談窓口は、市役所に現在あるか。
事務局	総合相談窓口は、現在無い。様々な相談窓口があり、たらい回しになることがある。その垣根を下げる取り組みとして、令和8年までに体制を整備していきたい。
委員	総合相談を受ける職員の知識や力量が問われると思う。広く見渡せる力

	<p>をもてるような取り組みがあると良いと思う。</p>
委員	<p>重層的支援体制とはこういった形となるのか。</p>
事務局	<p>例えば、介護職員が介護の関係で、自宅に訪問支援をした際に、引きこもりの方がいても、自分の管轄ではなく対応できないとなってしまう。その職員だけの力ではどうにもならないときに、重層的支援会議の対象となる。他機関と相談し、どうやったらできるかを考えていく。窓口だけでは解決しない。長い関係性で幾重にも重なって継続的に支援していく体制となる。</p>
委員	<p>市役所に来庁した際、住民が各担当課へ行くのではなく、職員が動くような仕組みをつくっていただきたい。</p>
事務局	<p>現在の窓口体制でも、極力その方を中心に職員が動いて対応している。ただし、階をまたぐ案件だと対応できていない状況もあるかと思う。思案させていただく。</p>
委員	<p>P68の成年後見利用促進事業について、支援の担い手として親族後見人も含めた活動の支援や市民後見人の育成などの取組を検討しているとあるが、法人後見も考えていただきたい。成年後見は個人が後見を行うが、法人後見は、組織がその人の後見を行うというもの。法人後見のメリットは、対象者の方のお金を預かる際、個人が預かるとトラブルになるケースがある。そういった個人で後見するのが難しいケースがあり、個人に荷の重い負担をかける形になるため、法人後見も検討いただきたい。</p>
委員	<p>親の虐待等の際の未成年の後見についても、過去何件かある。未成年後見についても今後検討いただきたい。</p>
事務局	<p>P70基本目標4（安全で安心して暮らせる環境づくり）について説明</p> <p>意見なし</p>
事務局	<p>（2）今後のスケジュールについて 第2期愛西市地域福祉計画策定スケジュールに基づき説明</p>